

第3回愛媛県新長期計画策定会議 議事録（要旨）

〔議事 基本構想最終案・基本計画中間案について〕

日時：H23.8.23 10:00～11:30

場所：県議会農林水産・建設委員会室

基本構想（最終案）について

修正意見等について

- ・分からない言葉があるので、できるだけ分かりやすい文章にする工夫が必要。

【委員長】

- ・言葉の問題について、ニュー・フロンティアやコーディネートなどの横文字は、分かりやすくするため、括弧書きをつけさせていただいた。
- ・言葉について、6ページは一応括弧書きがあるのでいいのではないか。
- ・他の箇所については、もう一度見ていただいて、簡単に直せるものは直し、文章の修正が大変なものはよろしいのではないか。後は、委員長にお任せしたい。
- ・基本理念「愛のくに 愛顔あふれる愛媛県」は、愛顔にルビをつけるべき。

【企画振興部長】

- ・愛顔は、他のものもルビをふっているのでも、これもそのようにさせていただきたい。
- ・12ページから13ページのデータについて、各データの比較対象年は同じにした方がよい。

【事務局】

- ・推計の関係で、確たる数値がある部分とない部分等があるため、こういう形になっているが、さらに精査してみたい。

広報について

- ・基本構想最終案について、最終的にどのようにして県民に伝えるのか。

【事務局】

- ・基本構想については、庁内で最終的な決定をした後、知事から発表。
- ・また、年内を目途に、第六次長期計画として基本構想と基本計画がまとまれば、冊子や県のホームページ等々でまとめるなど、いろんな場で周知徹底に努めてまいりたい。
- ・冊子を製作する場合、イラスト等も盛り込んだ分かりやすいカラーの薄いリーフレットを作成し、例えばコンビニのフリーペーパーのスペースなど、県民が手に取りやすい場所に並べることなども検討いただきたい。

【事務局】

- ・そういったことも含め、より県民の方に浸透できるような形で工夫したい。

最終案報告について

【委員長】

- ・基本構想は、修正できるところを修正し、この場でもって策定会議の総意として報告させていただく。

基本計画（策定方針・中間案）について

4 基本政策について

- ・以前の会議で若い人を育てるときに「国際」ということがあったが、未来を拓く豊かで多様な『人財』を育む「輝く愛顔」のところに、世界とか国際という内容が入るのが気になった。

20 政策について

- ・政策 「産業を担う人づくり」で、基本構想では「厳しい状況の中で産業の転換が求められていて、次世代を担う産業を創っていくための人材を育成していく」とあり、若年層についてはなかったが、具体的な施策になると「若年層をはじめ」と非常に強調されている。
- ・産業構造の転換には、40代50代の労働者が問題。さらには、女性の労働力、特に子育て世代の労働力の活用が問題。経済という観点での障害者の雇用も政策には必要。
- ・政策にある「安定した雇用の場を確保するとともに」は、非正規雇用についてだと推測するが、基本構想の中には「安定した」との言葉はなかった。有期か無期かという雇用の形態が問題ではなく、有期の雇用であっても労働条件が整い、本人が納得して次の夢に向かっていけば問題はないので、「安定した」を「尊厳のある雇用」とした方が良い。
- ・産業を担う人づくりについて、社会人の学び直しという項目がひとつ必要ではないのか

54 施策について

- ・基本構想と基本計画を比べると、いくつかの分野にまたがる内容があるが、それはそれで良い。
- ・例えば、交通ネットワークの整備は、基本構想の「1次代を担う活力ある産業を創る」と「2 快適で安全・安心の暮らしを紡ぐ」に入る。NPOについては、2の「参画と協働による地域社会づくり」と「4 調和と循環によりかけがえのない環境を守る」に入る。
- ・基本計画を作ると、その中だけでこだわってしまう可能性があるので、常にほかの項目にまたがっていると、さらにブレイクダウンして施策を作っていくときに、どの分野でもちゃんと対応できるということが必要。
- ・分類した54の施策の全体的な関係性、お互いの目標同士の関係で県全体を良くするという視点を基本理念だとかいろんなところできちんと文章で書いていただきたい。
- ・形としては、目標があって現状と課題、そして今後の数値化した指標という形の方が良いのではないか。
- ・現状と課題は、深掘りしていただきたい。社会の大きな流れなど、マクロとミクロの両方を検討していく必要があり、県民の意向も現状と課題に盛り込んでいただいたうえで、こういう指標にしたという方が、納得がいく気がする。
- ・一番大切なのは乳幼児期のことだと思うので、ひとつの施策「36 安心して産み育てることができる環境づくり」の中にまとめられているのは疑問。
- ・アンケート調査の結果からも乳幼児期の子育て支援に関しては満足度がかなり低かったので、乳幼児期の子育て、子育て支援について、もう少し具体的な何かが出てくるのが望ましい。
- ・例えば、資料 成果指標（案）で、「1 地域に根ざした産業の振興」の目標「県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい」と指標「製造品出荷額等」「県内商店街空き店舗率」の間には、直接の関連性はあまりない。
- ・施策6の目標「働く人がもっと安心していきいきと働けるようにしたい」とは、何のことを話しているのか分からない。

- ・施策6は、メンタルヘルスも含めてしっかりと述べるべきであり、ワークライフバランスについては項目を設けてしっかりと進めていくべき。
- ・労使紛争の解決が、快適な労働環境の整備に本当に繋がるのか疑問。

目標・指標について

- ・目標について、ある程度中長期的に進めていく必要があるものと短期的に行うべきものとの明確に区分して、「これはいつまでに」と分かるような形が良い。
- ・指標は、マイナスを恐れて無難な指標を出す必要はなく、目標が多面的、客観的に判断できるものを選んでいただきたい。

【事務局】

- ・評価指標については、現在庁内で鋭意検討中。
- ・県民への説明責任が果たせるような形の仕組みを今後考えてまいりたい。
- ・指標に関して。提供者側（サプライサイド）だけの指標ではなく、利用者側（ユーザーサイド）の目線も取り入れていただきたい。
- ・指標が、全部、数という表現になっているが、数よりも質がすごく大切なので、満足度というものも指標として大切な部分だと思う。

【事務局】

- ・指標は、現在も検討を続けているところなので、他に適当なものがあれば御指導いただきたい。
- ・質の面については、指標における数値の検証に併せ、県民アンケート調査により満足度、質の面についても検証し、計画のPDCAサイクルの中に関与させていくことを現在検討中。
- ・指標は、これから追加されるはず。10~20程度のものを出して、客観的な評価ができる資料を用意すべきで、ひとつやふたつの指標で評価するのは難しい。
- ・4年後に新たな課題が発見できれば、この検証の意味があり、さらにその後の6年でもっとマイナスを減らし、マイナスをプラスにするために、目標を正しく検証できて、問題点が出て、そしてそれを県民に訴えてということができるだけだけの指標なり、数値なり、具体的な満足なりを検討していただきたい。
- ・指標について、一年間で成果が出るものと出ないものがあるので、結果指標だけではなく、プロセスの部分について指標を設けて、アウトカム・結果の部分と併せて総合的な成果を測るべき。
- ・目標と指標の乖離が気になる。目標に対して、それを達成するために何をやるかというところが見えないと成果指標も作れない。
- ・上手くいっているかいないかを判断するときには、経済的に産業的にお金が儲かっていることを成功とする部分と社会貢献など経済的、産業的には判断できない部分を含めてということが共存しているので、同じ施策の中でもきちんと分けて判断していかなければならないところが非常に悩むところ。
- ・質、豊かさ、満足度、面白さというものの評価基準を見つける作業は、非常に難しい作業だが、目に見えないものをいかに評価していくかということを常に考え、目標を実現するための方法が、どれが良いのかという判断、指標というのは、トライアンドエラーを積み重ねていくべき。

【企画振興部長】

- ・評価にはできるだけ客観性を持たせたいので、できるだけ数値化していきたい。
- ・数字で表せない部分をできるだけ他の視点から見て数値化していく、客観性を持たせることが必要ではないかと考える。
- ・指標を出すために膨大な作業にならないことも必要。
- ・指標に関しましては、今後走りながら検討していけば良い。
- ・柱を見てしまうと柱に捉われてしまうので、ひとつひとつの柱で指標を決めていくよりは、いろいろなところに繋がっていく指標ができるのではないかと。
- ・例えば、健康な体を作っていけば、医療費の削減や、子どもの体力向上、スポーツを通じた地域活性化に繋がるなど、運動することだけでもいろんな指標になってくるのではないかと。
- ・目標は、もう少し大きく捉えたもの、県民の皆さんが関わられるような指標が良いと思う。
- ・例えば、国でもオリンピックのメダルの達成率があるが、そうするとこの前のワールドカップは入らないので、世界大会の入賞というようにすれば全部入ってくるなど、もっと大きく捉えても良いのではないかと、柔軟性を持ったものになればと思う。

その他

- ・策定方針について、基本構想の4つの考え方にリンクしていて分かりやすい。
- ・4つの基本政策、20の政策、54の施策と分けることは良い。
- ・策定方針のポイントで、「各部局の主体性発揮により計画推進」とあるが、各部局の主体性が発揮できるようなシステムを何か考えているのか。
- ・例えば、予算編成時に、部局に10億の予算を渡し、部局がどこを切るかどこを増やすか考え、そこに知事があまり口を差し挟まないなどのシステム的なバックアップ。

【企画振興部長】

- ・おっしゃるとおり予算への反映は非常に大きい問題で、県全体で取りまとめていくと同時に各部各課がそれぞれ工夫を凝らして作っていくという両面の問題がある。
- ・各部はこの長期計画に沿って新規政策を出していくが、予算の制約もあるため、予算編成の具体策について、今後、財政課と協議を進めてまいりたい。
- ・指標等を通じて評価するときの組織は、第三者機関が含まれる組織で評価していただきたい。
- ・今回、計画を作る中で、構想の方にフィードバックして年末に向かって修正がかかっていることを期待。
- ・資料のポイントで、ゆくゆくは毎年度の予算に反映される中で、AとBの優劣をつける場合のルールづくりみたいなものが基本計画の一番初めに、方向性としてあっても良いのではないかと。

【事務局】

- ・資料の構成案にある基本計画全体の目次において、重点的な取組み方針（計画推進の仕組みづくり）という部分が、いかに計画に実効性を持たせるかというもの。
- ・計画を予算に反映させる仕組み等々については、現在、鋭意検討中。次回の策定会議においては、この部分を含めて全体の考え方をお示しできるものと考えている。
- ・私たち自身が長期計画を学ぶ機会を持っていただく必要がある。

【事務局】

- ・県の長期計画についての学びの機会については、今後、検討していきたいが、現在の

制度においては、県のゼロ予算事業として出前講座があるので、是非、活用いただきたい。

【委員長】

- ・その出前講座は皆さん知っているものなのか。

【事務局】

- ・十分周知に努めてまいりたい。
- ・長期的に続けなければいけないものは続け、年度内でもやり方が間違っていたらすぐにやり方を変更できるよう、常に模索しながら、柔軟に対応をしていく形を取っていただきたい。

【企画振興部長】

- ・世の中の情勢も変わり、目的とするものも変化することはありえるので、それに応じたものになっているかという見直しは常に必要。
- ・県庁職員だけではなく、県民全体が一緒になってやっていこうという計画ができればと思う。
- ・ポイントに選択と集中の徹底とあるが、主な取組みには、これまで継続して行ってきたことの中で、おそらく、効果が十分にあったものが挙がって、効果があまり当初期待していたよりも現れてなかったものというのは、除かれているのではないかと思うが、それがちょっと分かりにくい。
- ・4年後、その後の4年なり6年なり具体的なアクションプログラムが検討されるとき、この4年間で行われた取組みが本当にどうだったかが反映でき、その後にもまた選択と集中が徹底できるような、職員の異動に関わらず、継続して選択と集中が行われて、より良い取組みが継続して行われるような仕組みづくりをしていただきたい。

【企画振興部長】

- ・予算に限られ、厳しい財政状況が続く中で、行政需要はたくさんあるが、メリハリをつけていかなければならない方向性として、選択と集中という言葉を挙げさせていただいた。
- ・そのために、まずは計画をこの54施策で整理していきたい。
- ・プロセスについては、予算のいろいろなアプローチの仕方があるので、全ては難しいと思うが、プロセスの核となる部分はやはり出すべきだろうと思う。
- ・そういう中で、戦略方針を出して、予算を集中的に投入するべきはどこかということを探っていく必要があると思います。そして、ルーティンで毎年整理していくということで、成果指標はできるだけ毎年出したいと思っています。

その他

- ・主に策定方針や計画の外枠について審議。会議で発言できなかった意見や具体的な取組み、本日、議論となった指標については、後日文書にて事務局まで提出。